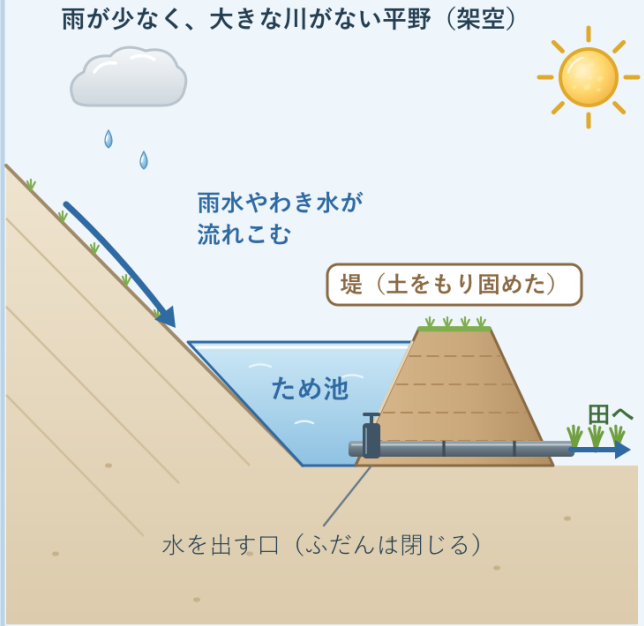
ため池をつくり守ってきた人々

雨の少ない土地で、人々はため池をどうつくり、水をどのように分け合ってきたのだろう

1 つくる：谷に堤をきずいて水をためる



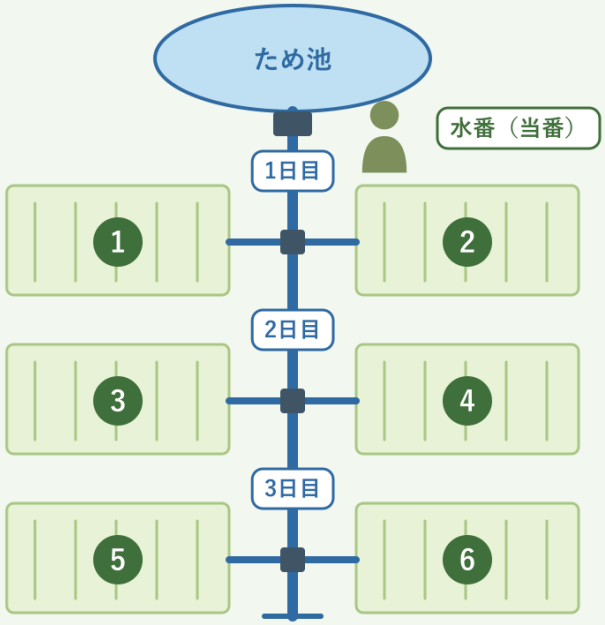
昔の人々の働き



土を運び、
力を合わせて
堤をきずいた

谷のせまい所を選び、雨水をためて、
田に使う水を手に入れようとした

2 分け合う：水を配るきまり（例）



水を配るきまり（例）

- 池に近い田から順に、日を決めて水を入れる（1・2→3・4→5・6）
- 水番が水門を開け閉めし、きまりが守られているか見回る
- 日照りの年は話し合い、水を少しずつにして、みんなで分ける

3 守る：昔から今へ受けつぐ

昔

昔から
堤の草をかり、くずれていないか見回る

昔から
池の水をぬいて、底のどろをとる（池干し）

昔から
水番を、地域の人が交代でつとめる

今
大雨の前に水を少しぬき、あふれるのを防ぐ

今
古くなった堤を、市や県と協力して直す

今

※ 模式図。平野・ため池・田は架空の例。きまりや守り方は例で、地域によってちがう。